

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
伊丹市（兵庫県）

全体総括

○計画期間：平成20年7月～平成25年3月（4年9ヶ月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づいて、「人とことばの辻街道 伊丹郷町」をコンセプトに「暮らしやすく、集い学べる郷町(まち)なか」「歩いて楽しい郷町(まち)なか」「活気あふれる郷町(まち)なか」を将来像として各事業を実施したところ、通行量など交流人口の増加とともに中心市街地の定住人口も増加するなど、にぎわいが創出された。これにより、営業店舗も増えるなど商業面にも好影響をもたらしている。

特に、中心市街地の飲食店が中心となって「伊丹まちなかバル」「酒樽夜市」など、多くの集客があるイベントを実施したことにより、来街効果があった。また、これらの事業を実施した飲食店の方々により「伊丹郷町屋台村」など新たなイベントが生まれるなど、活気が戻りつつある状況である。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した

【活性化状況】

- ② 若干の活性化が図られた

【詳細を記載】

基本計画に掲載している73事業のうち、63事業が遅滞なく実施でき、残り10事業についても検討中であり、概ね順調に進捗・完了したといえる。

各種取組により、まちなかの居住者は増えているものの、数値の上では目標を上回ることが出来なかった指標もあるが上記「1.」のとおり、まちなかには活気が戻りつつあり、また下記「5.」のとおり、まちなかへの来訪頻度は増えたと答えている市民が多い。目標に設定していない居住人口や営業店舗数も増えており、活性化は図られたと考える。

3. 活性化が図られた要因（伊丹市としての見解）

中心市街地活性化は、多くの参画がある方が望ましいため、官民一体でソフト事業を積極的に行い、活動の場を設けるとともに、活性化への意識向上を目指して「伊丹まちづくり大学」などの啓発事業を実施した。これにより、多くの方々の事業企画段階からの参画が図られ、にぎわい創出への機運が高まった。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

- ② 若干の活性化が図られた

【詳細を記載】

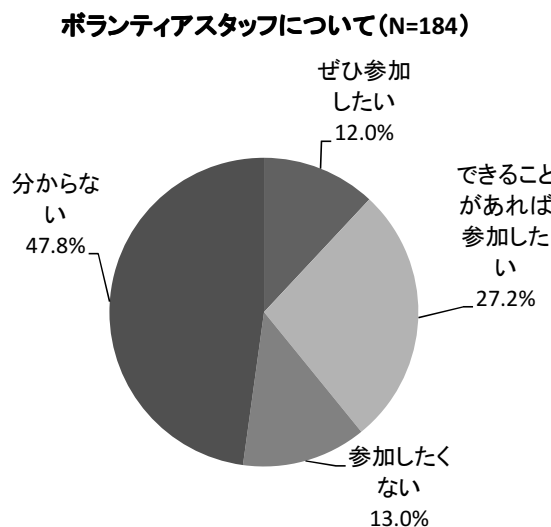
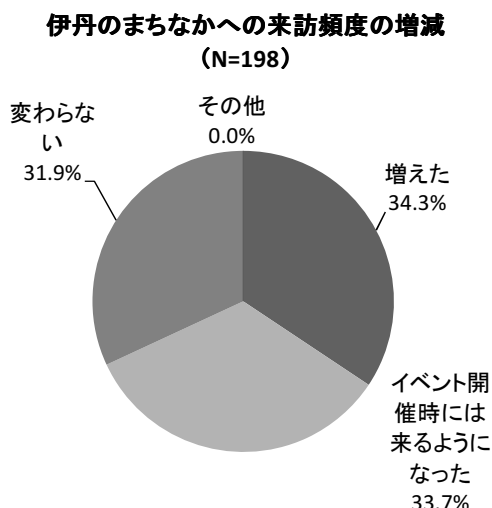
行政、商工会議所、商業者、市民が一体となって多くの事業を実施した。これにより、にぎわいが創出され、若手商業者が活躍する機会も増えた。協議会が主催となった「伊丹まちなかバル」や「酒樽夜市」などのイベントもあり、今後も更なる活性化に向けて一丸となって取り組んでいきたい。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ① かなり活性化が図られた

【詳細を記載】

まちなかに訪れる頻度については、イベント開催時も含めて増えている。イベントが多くて楽しいまち、活気のあるまちという意見をいただいた。また、今後イベントにボランティアスタッフとして参加したい方も多く、さらに多くの方の参画が期待できる。



6. 今後の取組

中心市街地活性化基本計画に基づく取組を行ったことにより、一定活性化の効果があつた。基本計画の期間は終了したが、市にとって中心市街地活性化施策は引き続き重要施策であるので、基本計画によって得られた経験を元に活性化を継続させていく予定である。また、達成できなかった数値目標もあるので、今後も努力目標に掲げ、活性化に取り組んでいきたい。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
暮らしやすく、集い学べる郷町(まち)なか	文化施設の利用者数	600,600人(H18)	1,146,000人	916,320人	H25. 3	B
歩いて楽しい郷町(まち)なか	歩行者・自転車通行量(休日5ポイント)	32,440人(H19)	40,000人	40,926人	H24. 10	A
活気あふれる郷町(まち)なか	まちづくりサポーター制度登録者数	60人(H19)	445人	472人	H25. 3	A
活気あふれる郷町(まち)なか	空き店舗数	113店舗(H19)	78店舗	146店舗	H24. 11	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

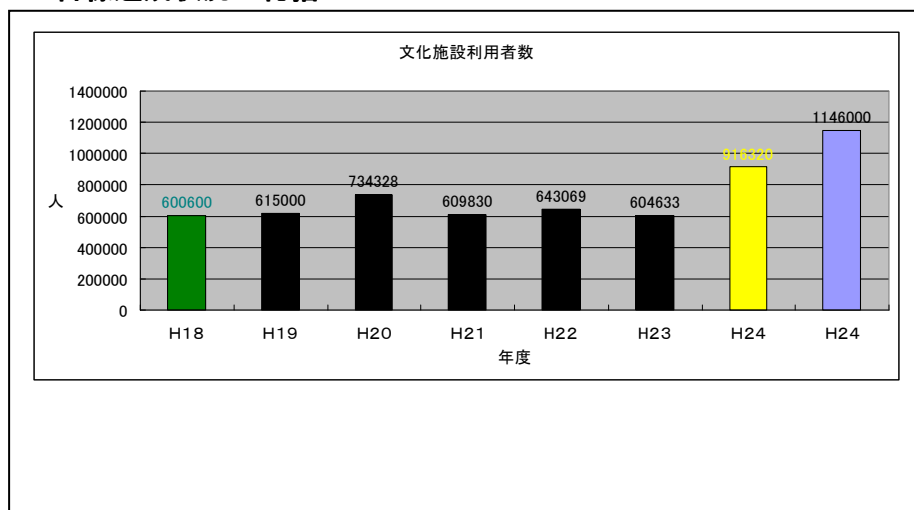
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「暮らしやすく、集い学べる郷町（まち）なか」

「文化施設（9施設）の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P52～P55 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位:人)
H18	600,600 (基準年値)
H19	615,000
H20	734,328
H21	609,830
H22	643,069
H23	604,633
H24	916,320
H24	1,146,000 (目標値)

※調査方法；平成24年度末の対象文化施設利用者合計

※調査月；平成25年3月

※調査主体；伊丹市

※調査対象；いたみホール（文化会館）、アイフォニックホール（音楽ホール）、アイホール（演劇ホール）、
工芸センター、柿衛文庫、美術館、郷町館（旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家）、美術ギャラリー、図書館・
交流センター

【総括】

新図書館・交流センターについては平成23年度中に完成したが、前図書館からの移転作業等により開館が当初の予定より3ヶ月遅れた。また、新図書館・交流センターと現行施設との共同事業実施など有機的な連携が不十分だったこともあり、目標値を下回った。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 新図書館整備事業整備事業（伊丹市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 平成22年度～23年度
事業開始・完了時期	平成20年度～23年度
事業概要	ことば文化都市伊丹の拠点として、現在暫定利用している土地に新図書館本館を建設し、都市機能を集積する。
目標値・最新値	目標値 440,000 人・最新値 279,090 人
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来なかった）理由	計画策定時には、平成24年度当初からの開館を見込んでいたが、7月開館となったこと。貸室の伸び悩み。
計画終了後の状況（事業効果）	利用者数は達しなかったが、交流センター部分でのソフト事業も浸透してきており、周辺の通行量も増えている。
新図書館整備事業整備事業の今後について	実施済み

②. 交流センター（仮称）整備事業（伊丹市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 平成22年度～23年度
事業開始・完了時期	平成20年度～23年度
事業概要	ことば文化都市伊丹の拠点として、現在暫定利用している土地に交流センター（仮称）を建設し、都市機能を集積する。
目標値・最新値	目標値 28,000 人・最新値 17,760 人
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来なかった）理由	計画策定時には、平成24年度当初からの開館を見込んでいたが、7月開館となったこと。
計画終了後の状況（事業効果）	利用者数は達しなかったが、交流センター部分でのソフト事業も浸透してきており、周辺の通行量も増えている。
交流センター（仮称）整備事業の今後について	実施済み

③. 文化施設連携事業（文化振興財団、伊丹市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	統一パンフレットの作成など連携した情報発信やスタンプラリーの実施など有機的な連携を図る。
目標値・最新値	目標値 17,500 人・最新値 13,424 人
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来なかった）理由	各館が連携したスタンプラリーの実施が出来なかった。
計画終了後の状況（事業効果）	新図書館がオープンしてから各館のPR連携が活発になっている。
文化施設連携事業の今後について	スタンプラリーなどイベントも実施し、継続する。

④. 体験型イベント事業（文化振興財団、伊丹市等）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～
事業概要	俳句、ジュエリー、陶芸など体験型イベントを開催し、中心市街地の回遊性の向上を図る。
目標値・最新値	目標値 60,000 人・最新値 60,645 人
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	各館が積極的に体験イベントを開催した。
計画終了後の状況（事業効果）	新図書館がオープンしてから各館のPR連携が活発になっている。
体験型イベント事業の今後について	今後も、同様の方法で継続する。

3. 今後について

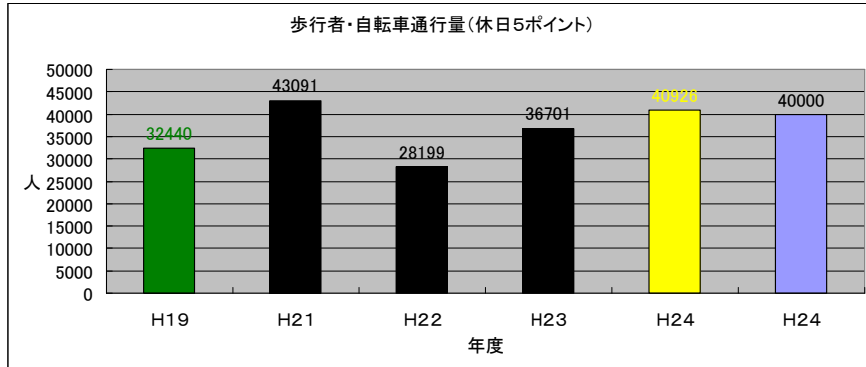
新図書館・交流センターについては平成 24 年7月に開館している。当初は4月からの開館を予定していたため、この施設の3ヶ月分の来場者が含まれなかったこともあり、数目標値は下回った。

また、現行の8施設においても基準年と比較すると利用者が増えており、新図書館・交流センターでの事業の充実や現行施設との共同事業実施など、さらなる連携が必要である。

目標「歩いて楽しい郷町（まち）なか」

「2軸における歩行者・自転車通行量（休日10時間の5ポイントの総和）」※目標設定の考え方
基本計画 P56～P61 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	32,440 (基準年値)
H21	43,091
H22	28,199
H23	36,701
H24	40,926
H24	40,000
	(目標値)

※調査方法；歩行者・自転車通行量調査

※調査月；平成24年10月

※調査主体；伊丹市

※調査対象；歩行者及び自転車通行者、休日5地点

【総括】

平成21年度はサンロード商店街のアーケード整備などハード事業が順調に進捗し、ソフト事業についても各種イベントを開催したことにより、中心市街地の魅力を高め目標値を達成した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 社会教育施設（新図書館、交流センター）整備事業（伊丹市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金 平成22年度～23年度
事業開始・完了 時期	平成20年度～23年度
事業概要	ことば文化都市伊丹の拠点として、現在暫定利用している土地に新図書館本館・交流センター(仮称)を建設し、都市機能を集積する。
目標値・最新値	目標値 1,710 人増・最新値 1,081 人増
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来 なかった）理由	計画策定時には、平成24年度当初からの開館を見込んでいたが、7月開館となったこと。貸館事業の伸び悩み。
計画終了後の状 況（事業効果）	通行量が増え、周辺で新たに店舗も出店するなど、にぎわいが創出されている。
社会教育施設整 備事業の今後に ついて	実施済み

②. サンロード商店街アーケード整備事業（伊丹中央サンロード商店街振興組合）

支援措置名及び 支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費 平成21年度
事業開始・完了 時期	平成21年度～22年度
事業概要	伊丹中央サンロード商店街において、老朽化したアーケードの再整備を行う。これに伴い、再整備したアーケードに付随したソフト事業も展開することにより、南の拠点として交流機能を強化する。
目標値・最新値	目標値 600 人増・最新値増減なし
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来 なかった）理由	アーケードの整備とともに、商店街としてソフト事業を実施したが空き店舗を解消するまでに至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつあるが、今後は空き店舗対策を強化していく。
サンロード商店 街アーケード整 備事業の今後に ついて	実施済み

③. 伊丹ショッピングデパート改築事業（伊丹ショッピングデパート）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	平成19年度～20年度
事業概要	伊丹ショッピングデパートにおいて全フロアを改築し、テナントの再構築を行い、中心市街地の核となる商店街に再生する。
目標値・最新値	目標値 400 人増・最新値 400 人増
達成状況	達成した
達成した（出来 なかった）理由	フロア改築とともに、空き店舗が解消され来館者が増えた。
計画終了後の状 況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつあるが、今後も空き店舗対策を強化していく。
伊丹ショッピン グデパート改築 事業の今後につ いて	実施済み

④. 商業振興特定誘致地区支援制度活用事業（民間事業者、伊丹市等）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成20年度～23年度
事業開始・完了 時期	平成15年度～23年度
事業概要	市の助成制度の活用を図り、魅力ある店舗誘致など商店街のテナントミックスを行うことにより、商業のにぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値 1,500 人増・最新値 1,800 人増
達成状況	達成した
達成した（出来 なかった）理由	景観に配慮したまちづくり、積極的なイベント開催等により、中心市街地への魅力を増加させたことにより、出店者が増えた。
計画終了後の状 況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつある。
商業振興特定誘 致地区支援制度 活用事業の今後 について	今後も同様に継続する。

⑤. イベント開催事業（民間事業者、伊丹市等）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	平成20年度～
事業概要	歩行者優先道路の2軸が交差する三軒寺前広場を活用し、イベントを実施する回数を増加させることにより、通行量の増を見込む。
目標値・最新値	目標値 1,500 人増・最新値 1,500 人増
達成状況	達成した
達成した（出来 なかった）理由	三軒寺前広場をイベントしやすい設えに整備し、各種イベントを積極的に開催できた。
計画終了後の状 況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつある。
イベント開催事 業の今後につい て	今後も同様の方法で継続する。

⑥. 定住人口増による通行量増

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	公共施設など都市機能の集積や、民間マンション建設などにより人口の増加を図る。
目標値・最新値	目標値 720 人増・最新値 1,249 人増
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	都市機能の集積やマンション建設等が順調に進んだ。
計画終了後の状況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつある。
定住人口増事業の今後について	実施済み

⑦. 総合的な取組による通行量増

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	歩行者優先道路の整備、中心市街地案内サインの設置、文化施設の相互連携など総合的な取り組みにより通行量の増加を見込む。
目標値・最新値	目標値 1,620 人増・最新値 2,456 人増
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	ハード整備も順調に進捗し、ソフト事業も活発化できた。
計画終了後の状況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつある。
総合的な取組事業の今後について	今後も同様に継続する。

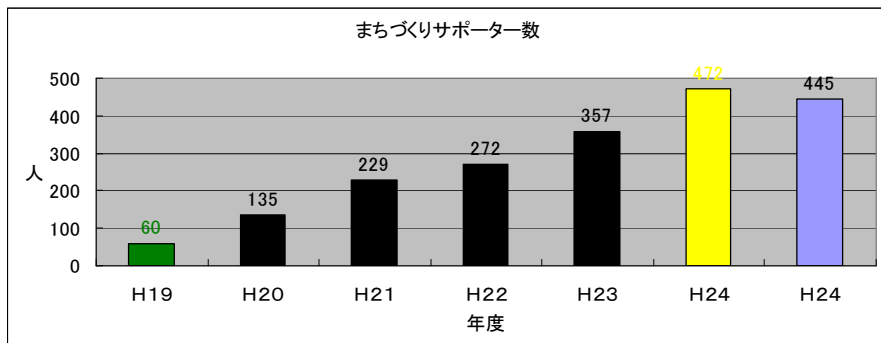
3. 今後について

平成21年度はサンロード商店街のアーケードが整備され、また24年度は中心市街地において「伊丹まちなかバル」「酒樽夜市」などの継続事業に加え「クリスマスマーケット」など新規イベントも開催したことにより、通行量は増加しているため、今後も既存・新規事業を展開していく。

目標「活気あふれる郷町（まち）なか」

「まちづくりサポーター制度登録者数」※目標設定の考え方基本計画 P62～P64 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人)
H19	60 (基準年 値)
H20	135
H21	229
H22	272
H23	357
H24	472
H24	445 (目標値)

※調査方法；まちづくりサポーター登録者数

※調査月；平成25年3月

※調査主体；ITC（NPO法人いたみタウンセンター）

※調査対象；ITCまちづくりサポーター登録者

【総括】

新規イベントや講座を実施する中で、新たなサポーターも増えてきており、基本計画に掲げている事業を実施していくことにより、目標を達成した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 伊丹まちづくり大学の開催事業（ITC）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了 時期	平成18年度～
事業概要	まちづくりに興味のある方を対象に、まちづくりの基礎理論や先進地の事例を題材とした、まちづくり大学などの講座を開催し、人材育成を図る。
目標値・最新値	目標値 75 人増・最新値 84 人増
達成状況	達成した
達成した（出来 なかった）理由	まちづくり大学開催により、市民意識が啓発されイベント等をサポートする方が増えた。
計画終了後の状 況（事業効果）	毎年、開催したまちづくり大学の受講生がイベントなどまちづくりへ参加されている。
伊丹まちづくり 大学の開催事業 の今後について	今後も継続して実施。

②. 商学連携推進事業（市立伊丹高校 他）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成15年度～
事業概要	市立伊丹高校の生徒を中心に中心市街地の商店街において集客を高める事業を推進し、多様な世代の取り込みを図る。
目標値・最新値	目標値 30 人増・最新値 40 人増
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	商学連携事業に取り組む商店街の数も増え、まちづくりサポーターへの登録も増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	多様な世代がまちづくりに参画することにより、既存の事業も活性化した。
商学連携推進事業の今後について	今後も継続して実施。

③. イベントの開催事業（伊丹市 他）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成20年度～23年度
事業開始・完了時期	平成10年度～
事業概要	中心市街地で、四季おりおりに実施されているイベントを拡充するとともに、新規のイベントも開催し、中心市街地のにぎわいへ繋げる。
目標値・最新値	目標値 250 人増・最新値 250 人増
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	積極的に大規模イベントを開催することで、企画・実施に参加する「まちづくりサポーター」が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	イベントの開催・拡充を行うことにより、新たな事業が実施されるなど相乗効果もみられた。
イベントの開催事業の今後について	今後も継続して実施。

④. 場の提供事業（伊丹市 他）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	中心市街地で、空き店舗や空きスペース等を有効活用し、市民活動の拠点づくりを行う。
目標値・最新値	目標値 30 人増・最新値 38 人増
達成状況	達成した
達成した（出来なかった）理由	空き店舗や空きスペースでイベント、講座などを行い有効活用できた。
計画終了後の状況（事業効果）	空きスペースでは、自由な活用が図られた。
場の提供事業の今後について	今後も継続して実施。

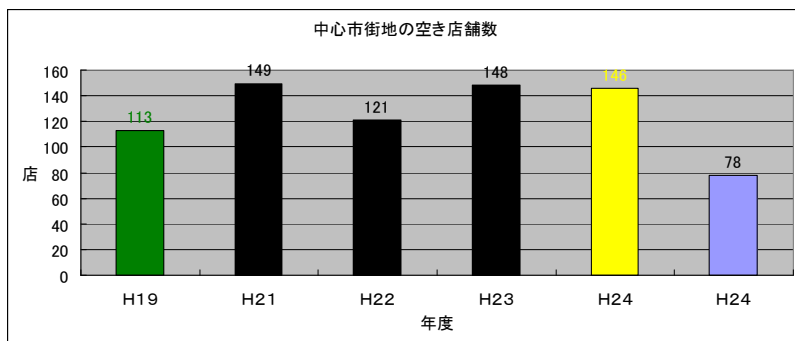
3. 今後について

今後も、講座などを実施することにより、まちづくり活動に対する啓発の機会を設けたり、イベントなどソ
フト事業を活発化させることで、サポーターの数を増やしていく。

目標「活気あふれる郷町（まち）なか」

「空き店舗数の減少」※目標設定の考え方基本計画 P64～P66 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:店舗数)
H19	113 (基準年値)
H21	149
H22	121
H23	148
H24	146
H24	78 (目標値)

※調査方法；空き店舗調査

※調査月；平成24年11月

※調査主体；伊丹市中心市街地活性化協議会

※調査対象；中心市街地内空き店舗

【総括】

商店街の空き店舗への支援など各種制度の活用により、営業店舗は増えるなど一定成果も見られるが、昨今の経済情勢や近隣他都市での大型店出店などにより、目標達成はできなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 空き店舗対策事業（伊丹市 他）

支援措置名及び 支援期間	市補助事業 平成20年度～
事業開始・完了 時期	平成20年度～
事業概要	商店街の空き店舗で新たに開業する方に一定期間の家賃等の補助をする など、魅力ある商業集積を図る。
目標値・最新値	目標値 30 店舗出店・最新値9店出店
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来 なかった）理由	商店街でのテナントミックスが思うように出来なかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	商店街での空き店舗は減少しなかった。
空き店舗対策事 業の今後につい て	今後も継続して実施。

②. 商業振興特定誘致地区支援制度活用事業（伊丹市 他）

支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成20年度～23年度
事業開始・完了 時期	平成15年度～
事業概要	中心市街地の景観に配慮した魅力ある店舗の誘致を行うことにより、空き店舗の解消に努め、商業のにぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値 15 店舗の新規出店・最新値 18 店舗出店
達成状況	達成した
達成した（出来 なかった）理由	中心市街地で様々な事業を実施することにより、イメージアップを図り店舗誘致制度も相まって、新規出店が増加した。
計画終了後の状 況（事業効果）	新規出店の店舗がイベントに積極的に参加するなど、にぎわいの創出に寄与している。
商業振興特定誘 致地区支援制度 活用事業の今後 について	今後も継続して実施。

③. 伊丹ショッピングデパート改築事業、アーケード整備事業（伊丹ショッピングデパート、サンロード商店街）

支援措置名及び 支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費（アーケード整備） 平成21年度
事業開始・完了 時期	平成19～20年度（ショッピングデパート）、21～22年度（サンロード）
事業概要	伊丹ショッピングデパートの全フロア改築事業とサンロード商店街のアーケード整備により空き店舗解消を見込む。
目標値・最新値	目標値 10 店舗減・最新値4店舗減
達成状況	達成出来なかった
達成した（出来 なかった）理由	サンロード商店街については、アーケード整備とともにソフト事業も実施したが、空き店舗を解消するまでには至らなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	通行量は増え、にぎわいを取り戻しつつあるが、今後も空き店舗対策を強化していく。
伊丹ショッピ ングデパート改築 事業、アーケー ド整備事業の今 後について	実施済み

3. 今後について

今後は、中心市街地において発足させたオーナー会を中心に、情報交換を密にしながらリーシングを展開するなど空き店舗等支援事業を強化していく。